

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



vol. 105
April
2016

International University of Health and Welfare

入学式

平成28年度

学位記授与式

平成27年度



二〇一六年四月、
国際医療福祉大学は
大友邦新学長を迎えました。

本学は四月一日付けで新学長として大友邦（おおとも・くに）学長を迎え、新たな体制のもと医療人育成の教育を推し進めてまいります。

北島政樹前学長は、二〇〇七年に国際医療福祉大学副学長・三田病院長に就任され、二〇〇九年七月より六年八か月にわたって学長を務められました。この間、本学の教育の特長である関連職種連携教育の確立やキッズスクール、幸齢者スクールをはじめとする公開講座の定着化、一五の国・地域にわたる約二〇の大学・医療機関との協定締結によるグローバル化の推進、さらに、今春開設した成田キャンパスの設置準備や成田市と共同で提案した東京圏国家戦略特区「国際医療学園都市構想」、および来春新設予定の医学部に向けての準備など、さまざまな教育面での発展にご尽力いただきました。ここに改めてこれまでの多大なご功績に感謝申し上げます。なお、北島前学長は国際医療福祉大学副理事長、および名誉学長に就任いたします。

大友邦学長は一九五四年、横浜で生まれ、青山学院初等部、東京教育大学附属駒場中・高等学校、東京大学医学部を卒

業。一九九八年に東京大学大学院医学系研究科・放射線診断学教授に就任されました。二〇〇五年から二〇一一年まで日本医学放射線学会理事長を務め、第七〇回、第七四回日本医学放射線学会総会で会長を二度務められました。日本の放射線医学における第一人者として、消化器領域疾患における画像所見の病理的背景の解明と肝細胞癌に対する経カテーテル的治療の技術的改良に取り組みとともに、生体情報の可視化のための先進的ソフト開発では二〇〇七年度ベルツ賞を受賞されました。また、放射線科専門医制度の整備や日本医学放射線学会英文誌の創設を通じて、放射線医学の診療・教育・研究に多大な貢献をされました。

大友邦学長 ごあいさつ



国際医療福祉大学は一九九五年の開学以来、「病氣や障害を持つ人も健康な人も、お互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現」をめざし、三

つの基本理念と七つの教育理念を掲げて教育を推進してまいりました。おかげさまで昨年創立二〇周年を迎え、現在は大田原市のほか今春開設いたしました千葉県成田市、神奈川県小田原市、福岡県福岡市と大川市の五キャンパス八学部二一学科に、大学院を含めますと約七五〇〇人の学生が学んでおります。これまでに育成した約一九〇〇〇人の卒業生は全国の医療福祉の現場で活躍しております。

現在の医療福祉の現場においては、「チーム医療・チームケア」が不可欠です。本学は医療福祉の総合大学である利点を生かし、開学以来「関連職種連携教育Ⅱ I P E (Interprofessional Education)」を推進してまいりました。学生たちが学部・学科を横断したチームを編成して臨床実習まで臨む点が大きな特長です。在学中に「チーム医療・チームケア」を体験できる本学独自のカリキュラムで、一年次から四年次まで体系化されたカリキュラムを通じて「チーム医療・チームケア」の考え方やスキルを修得し、国際的な現場で求められるコミュニケーション能力を身につけます。これは附属病院をはじめ充実した関連施設を多数持ち、複数の学科が同じキャンパス内で学ぶ医療福祉の総合大学だからこそ可能なカリキュラムでしょう。

医療福祉専門職をめざす学生たちが質の高い「チーム医療・チームケア」を実践するためには、教育スタッフと

を全学生必修にし、英・独・仏・西・中・韓・タイ・ベトナム・ビルマ語など九か国語の語学の授業を選択することができます。また、教員には長年 J I C A で国際協力に尽力してきた人材など、海外経験が豊富で優れた国際感覚を持った人材を数多く迎えました。

また、二〇一七年四月には、同じく成田市に医学部の新設を予定しております。昨年一月に政府の国家戦略特区諮問会議で、本学が医学部を新設する計画が認められました。国際性を重視しながら、診療参加型の臨床実習を二年以上行うなど世界の標準を上回るカリキュラムによる医学教育を実現し、高い診療能力と英語によるコミュニケーション

ーション力を身につけた国際的な人材育成をめざします。さらに、二〇二〇年には近隣の畑ヶ田地区に六〇〇床規模の附属病院と最先端の医療機器を整備したトレーニングセンターの設置なども計画しています。最後に、学生の皆さんが健康で充実した時間を過ごし、生涯にわたる職業の基礎と人的ネットワークを構築されることを心から願っています。そのためには私たち教職員一同も精一杯努力して皆さんを支援していきたいと思っています。そして卒業後に社会に出られたとき、国際医療福祉大学を選んでよかったと感じていただければこれにまさる喜びはありません。

2-3 大友邦 新学長ごあいさつ

3 寄付についてのご報告とお願い

特集1 平成27年度
学部・大学院 学位記授与式

- 4 大田原キャンパス学位記授与式
北島政樹学長式辞／天野隆弘大学院長式辞
津久井富雄大田原市長祝辞
- 5 学部卒業生・大学院修了生概要／博士課程修了者論文タイトル
- 6-8 卒業生総代／学長賞受賞者／大学院長賞受賞者
- 9 小田原キャンパスレポート
- 10-11 福岡キャンパスレポート／大川キャンパスレポート
- 12 大学院キャンパスレポート／
塩谷看護専門学校キャンパスレポート
- 13 本学名誉大学院長・学事顧問 金澤一郎先生合同葬
国際トピックス

特集2 平成28年度 学部・大学院 入学式

- 14 大田原キャンパス入学式／学部・大学院新入生概要
- 15 成田キャンパスレポート
- 16-17 新任のごあいさつ

高橋 泰	医療福祉学部長
黒澤 和生	小田原保健医療学部長
中村 秀一	副大学院長
今泉 勉	副大学院長
宮崎 勝	国際医療福祉大学三田病院 病院長
佐伯 直勝	化学療法研究所附属病院 病院長
銭谷 幹男	山王メディカルセンター 院長
山下 香枝子	成田看護学部長
杉原 素子	成田保健医療学部長
西田 裕介	成田保健医療学部 理学療法学科長
河野 真	成田保健医療学部 作業療法学科長
城間 将江	成田保健医療学部 言語聴覚学科長
大澤 進	成田保健医療学部 医学検査学科長
畦上 恭彦	保健医療学部 言語聴覚学科長
内蔵 啓幸	保健医療学部 放射線・情報科学科長

18 冬季海外保健福祉事情

オーストラリア／シンガポール／タイ

19 生涯学習のご案内

寄付についてのご報告とお願い

日本初の医療福祉の総合大学として開学した本学は昨年、創立二〇周年を迎えました。今年四月には成田キャンパスを開設し、一年後にはこのキャンパスに医学部を新設する計画です。二〇一八年には都心の赤坂に大学院と新しい学部のキャンパスを開設する計画もあります。既存のキャンパスの校舎やグラウンドの整備、設備・備品の更新も進めています。本学が教育・研究のための環境をさらに向上させ、新たな発展をしていくために、昨年一二月から「創立二〇周年記念 教育充実募金」を行っています。

この募金に、四月八日現在で五二二件、総額二七四万五千円のご寄付をいただいています。内訳は、▼学生・保護者一七七件・計三〇五万円、▼卒業生九件・計一十一万円、▼教職員三〇七件・計二〇三万五千円などとなっています（教職員の中に卒業生が含まれるため、実際の卒業生のご寄付はこの数字より多いと見られます）。多くの方々によるご支援に事務局として心より御礼申し上げます。

この創立二〇周年記念の募金は来年五月末まで続けますので、引き続きお力添えをいただきますようお願いいたします。また、並行して「医学部新設事業募金」も行っています。それぞれの募金の手続きや優遇税制 問い合わせ先については大学のホームページをご参照願います。
(<http://www.iuhw.ac.jp/about/shien/index.html>)

（東京事務所 総務企画部）

特集1 式辞・祝辞

平成二七年度
学部・大学院
学位記授与式

三月九日、大田原キャンパスの「平成二七年度学位記授与式」を行った。
校歌斉唱に続き、北島政樹学長から学部卒業生総代の赤羽根好乃さん（言語聴覚学科）へ、天野隆弘大学院長から修士総代の川村真由美さん（博士課程・先進的ケア・ネットワーク開発分野）へ、それぞれ学位記が手渡された。さらに、各学科の学業最優秀者に「学長賞」が、博士課程・修士課程の研究業績優秀者に「大学院長賞」が授与された。

北島学長、天野大学院長の式辞に続き、来賓の大田原市長・津久井富雄様、栃木県知事代理・富田哲夫様が祝辞を述べられた。また、祝電披露では、学生がボランティアで継続的に訪れている郡山市内の仮設住宅に住む富岡町の方々からのお祝いの言葉が読み上げられた。

総代による「卒業生謝辞」、「修了生謝辞」に続き、高柳美里さん（言語聴覚学科）の「卒業記念品贈呈」をもって閉式。その後はそれぞれ「学科別（大学院）学位記伝達式」に臨んだ。



●合唱部のリードによる校歌斉唱

学長式辞（抜粋）



東日本大震災から五年。本日こうして、みなさんのご卒業をお祝いできることを大変うれしく思います。また、今日までご支援されてこられたご両親、ご家族のみなさまにおかれましても、お慶びのこととお祝い申し上げます。



本学は、病める人も、障害を持つ人も、健康な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現をめざすことを建学の精神に掲げ、一九九五年、我が国初の医療福祉の総合大学として開学しました。昨今、文系大卒生の就職状況が厳しくなるなか、本学への求人数は卒業生一人あたり一〇一人、就職率はほぼ一〇〇％となっております。これはみなさんの先輩が医療福祉の現場で高い評価を受けている証であり、みなさんは今後それぞれの現場でこれを大きな励みにしていただきたいと思っています。

国際的な医療人材の育成をめざした医学部の開設計画をはじめ、本学は国際化に向けて、国内外におけるさまざまな展開を加速しております。本日の卒業生、修了生のみなさんは、本学で学んだ技術と知識を大いに活用され、医療福祉の先導者となるべく、「自ら考え、自ら行動する」豊かな人間性を備えていただきたいと思っています。

大学院長式辞（抜粋）



本日卒業ましたは修了されたみなさんに、現在、医療と向き合う上で誰もが指針として意識すべきMedical Professionalismという言葉を紹介いたします。



ギリシャ神殿にたとえますと、屋根の上の四本の柱が支え、さらにこれを三段の土台が支えております。土台の一番下は、今まで学んできた知識や技能、二段目は、患者様やご家族、さらにはほかの専門職とのコミュニケーション、三段目は、倫理と、医療や一般の法律に関する理解、遵守であります。この土台の上に四本の柱が立っています。一つ目は「excellence」で、卓越性、すなわち、現在身につけている知識の向上であり、医療の世界では、絶えず磨き続けなければならない。二つ目は「humanism」で、患者様やご家族に対する思いやり、つまり、人の道であります。三つ目は「accountability」説明義務で、患者様やご家族、社会によくわかるように説明して了解を得ることです。四つ目は「patient first」で、常に患者様やご家族を第一に考えた行動がとれるということでもあります。これを胸に、みなさんが医療人としての道を歩まれることを念じております。

大田原市長祝辞（抜粋）



人生で最も多感な青春の時期を過ごした大田原での生活はいかがでしたか。多くの出会い、多くの感激が詰まった充実した学生生活であつたことと思います。



今日「福祉のまち・大田原」が実現しましたのは、貴大学の先生方や学生のみなさんのご支援があったからこそであります。みなさんが市内各地で行ってきた数々の活動、すなわち、ほほえみセンターでのお年寄りとの交流、子どもたちとの交流、絵本の点訳、障害児・障害者との交流、手話活動、献血への呼びかけ、与一まつりへの参加、大田原マラソン大会での選手の出迎えや沿道での応援、河川などの清掃奉仕などは大田原市に大きな活力を与えていただきました。東日本大震災からの復旧、復興に際して学生のみなさんのボランティア活動によって大きな力をいただいたことは記憶に新しく、私の市政運営の目標である「知恵と愛のある協働互敬のまちづくり」のよいお手本であると感じております。

貴大学の卒業生が全国で活躍されることにより、大田原の知名度も向上しており、感謝に堪えません。大田原の地で培った知識、経験を糧に、医療福祉分野の一翼を担い、人々の幸せのために志を全うされることをお祈り申し上げます。

平成二七年度
学部卒業生・
大学院修了生概要

学部卒業生 合計	1346名
保健医療学部 合計	580名
看護学科	116名
理学療法学科	106名
作業療法学科	97名
言語聴覚学科	97名
視機能療法学科	48名
放射線・情報科学科	116名
医療福祉学部 合計	177名
医療福祉・マネジメント学科	177名
薬学部 合計	155名
薬学科	155名
小田原保健医療学部 合計	155名
看護学科	60名
理学療法学科	48名
作業療法学科	47名
福岡看護学部 合計	99名
看護学科	99名
福岡保健医療学部 合計	180名
理学療法学科	95名
作業療法学科	47名
言語聴覚学科	38名
修了生 合計	256名
大学院修了者 合計	216名
医療福祉学研究科 合計	214名
保健医療学専攻	140名
医療福祉経営専攻	51名
臨床心理学専攻	23名
薬学研究科 合計	2名
生命科学学専攻	2名
博士課程 合計	40名
医療福祉学研究科 合計	35名
保健医療学専攻	35名
（論文博士乙種合格者 1名含む）	
薬学研究科 合計	5名
医療・生命科学学専攻	5名

卒業する留学生

- 保健医療学部 看護学科
- ゲレル・オクト・アリウン・バヤル・モンゴル
- 李 虔和（リケンワ） 中国
- 黄詩洋（コウシヨウ） 中国
- 保健医療学部 理学療法学科
- キム・ソンギョン 韓国
- 雷夢（ライム） 中国
- 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科
- アルド・サンドウィー・モンゴル
- 小田原保健医療学部 看護学科
- 朴彦柱（パク・オンジュ） 韓国
- 福岡看護学部 看護学科
- 唐美玲（トウ・メイレイ） 中国
- 福岡保健医療学部 理学療法学科
- 劉振（リュウ・ジン） 中国
- 鄭飛（テイ・ヒ） 中国

修了する留学生（修士課程）

- 理学療法学専攻
- 尹璐（インロ） 中国
- ピョー・バミン・ミヤンマー
- 作業療法学専攻
- ヤミン・エイ・ミヤンマー
- ジョン・アルム・韓国
- 医療福祉国際協力学専攻
- ワイン・バサンダー・ミヤンマー
- 生命科学学専攻
- ワッタナカ・モル・キッティマ・タイ
- 医療経営管理分野
- 李光輝（リ・コウキ） 中国
- 診療情報アナリスト養成分野
- ケオ・マニー・バロム・ラオス
- 放射線・情報科学分野
- アスグラ・デウィ・タニヤ・インドネシア

修了する留学生（博士課程）

- 医療福祉国際協力学専攻
- アウン・ティ・ハ・ミヤンマー
- 作業療法学専攻
- 黄富表（コウ・フ・ビョウ） 中国
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- クロー・ワ・ナズグ・リ・キルギス
- 医療福祉経営学専攻（論文未提出 満了）
- 田蘭寧（テン・ラン・ネイ） アメリカ

医療福祉経営学専攻（論文未提出 満了）

- 李弘達（リ・オウ・タツ） 中国

博士課程修了者（論文博士を含む）

- 論文タイトルは変更された場合があります
- 西村和美（看護学分野）
- 「中高年女性の尿失禁の実態と看護支援のあり方の検討」
- 相川倫（言語聴覚分野）
- 「アルツハイマー病における潜在記憶：単語完成課題のライミング効果からの検討」
- 秋吉直樹（福祉支援工学分野）
- 「後方への方向転換動作における先行随伴性姿勢調節の若年者と高齢者の比較」
- 天野雅美（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- 「病院における医療職間の暴言に関する研究——看護職に視点をあてて——」
- 磯玲子（医療福祉学分野）
- 「高齢者医療介護における職種・機関間「連携」の現状と課題——病院から在宅への移行時を中心とした検討——」
- 伊藤忠（理学療法学分野）
- 「慢性腰痛を有する高齢者への固有感覚に対する局所振動刺激時の姿勢動揺に関する研究」
- 岩清水伴美（看護学分野）
- 「保健師による乳幼児虐待ハイリスク家庭のチームケア能力向上のための育成プログラムの検討」
- 生方 暁（理学療法学分野）
- 「腹圧性尿失禁患者に対するインナーユニット機能を用いた新たなトレーニング方法の開発と介入効果」
- 及川真入（理学療法学分野）
- 「都市部在住脳卒中片麻痺者の生活空間に影響を及ぼす要因」
- 大石 斐子（言語聴覚分野）
- 「失語症者の文産生に語用論的要因が及ぼす影響——発話の視点からの検討——」
- 金子千香（理学療法学分野）
- 「理学療法学科における早期退学予防対策をめざして——1年生を対象とした大学生活不安尺度調査より——」
- 川村 真由美（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- 「シングル介護の危機的状況および危機促進・回避要因の検討——有効的な支援に向けて——」
- 木下 勝範（先進的ケア・ネットワーク開

発研究分野

- 「中高年者に対する運動習慣を目指した身体操の試行と効果」
- KUJOVA MZGUL（医療福祉ジャーナリズム分野）
- 「青少年の自殺予防システムの課題に関する研究——キルギス共和国と日本の対比——」
- 栗原 靖（福祉支援工学分野）
- 「ランニング動作におけるキレレス腱伸張負荷を推察するための指標の検討」
- 黄富表（作業療法学分野）
- 「注意機能障害と前頭前野脳血流動態に関する研究——Continuous Performance Test-2を用いた検討——」
- 鈴木 祐子（医療福祉学分野）
- 「開業助産師による育児力を高める支援」
- 田頭 勝之（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- 「エスカレーターの乗降動作に関する研究」
- AUNG THIA（医療福祉国際協力学分野）
- 「[Differential Expression of Survival in Mammary Gland Diseases]
- 長谷川 哲也（理学療法学分野）
- 「立位におけるアライメントおよび腰部への力学的負荷が腰痛の訴えに与える影響」
- 安田 菜穂（言語聴覚分野）
- 「失語症患者の文産生における統語処理——非流暢性失語と流暢性失語の比較——」
- 山本 潤（リハビリテーション学分野）
- 「前向きシャツを用いた着衣障害の徴候とそのメカニズム」
- 岡徳之（作業療法学分野）
- 「自動車での速度変化と操舵行動が引き起こす脳活動——大規模ドライビングシミュレータを用いた検討——」
- 玉利 誠（放射線・情報科学分野）
- 「神経イメージングを用いたパーキンソン病患者の黒質体積測定プログラムの開発と解析」
- 阿部 紀男（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- 「要介護高齢者とその家族の自立性の改善に対する意識」
- 嵯峨井 千佳（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- 「特別養護老人ホームにおける虐待の現状と傍観者に関する研究」
- 式 恵美子（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）

「地域連携室の活動に関する研究——退院調整に焦点をあてて——」

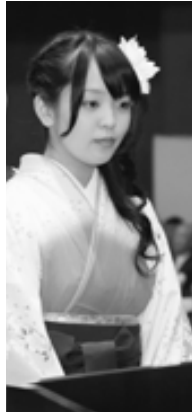
- 小谷 尚美（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- 「認知症改善事業「認知症あんしん生活実践塾」に参加した家族の思いに関する研究」
- 村岡 健史（福祉支援工学分野）
- 「特別養護老人ホーム職員が求める車いす機能抽出のための研究——他施設との比較から——」
- 藤原和彦（作業療法学分野）
- 「在宅認知症高齢者の家族介護者における「家族作業療法プログラム」に関する研究」
- 八木 裕子（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- 「介護職・介護学生の自我意識とそれに影響を及ぼす要因について」
- 富田 幸江（看護学分野）
- 「新卒看護師にかかわる実地指導者のアサーティブネスの影響要因」
- 林 重雄（医療福祉経営学分野）
- 「病院経営における収益シミュレーションモデルに関する研究」
- 鈴木 賢治（視機能療法学分野）
- 「アイトラッキングを用いた客観的視機能評価法の検討——健康者および重症心身障害児者における視運動性眼振の解析——」
- 木村 暢男（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- 「認知症在宅生活支援におけるケアマネジャーの困難感の分析」
- 石井 大輔（医療・生命科学専攻）
- 「慢性疼痛がストレス適応形成ならびにストレスレベリングに及ぼす影響」
- 伊藤 かつる（医療・生命科学専攻）
- 「日米欧の高血圧診療ガイドラインにおける医療経済評価の活用状況とわが国における降圧薬の費用効果分析」
- 長谷川 フジ子（医療・生命科学専攻）
- 「薬局薬剤師によるフジカル・アセスメントの実践に向けての取り組み——在宅医療の時代に即して——」
- 山我 美佳（医療・生命科学専攻）
- 「日本における脳血管障害のCost of Illnessと再生医療による費用削減に関する検討」
- 山西 由里子（医療・生命科学専攻）
- 「過活動膀胱に対するミベグロンの医薬品経済評価」

学科賞受賞者

卒業生総代
視機能療法学科 赤羽根好乃
卒業生総代（六ページに掲載）



言語聴覚学科 高柳美里



作業療法学科 佐々木笙子



理学療法学科 船橋史織



看護学科 小堀綾乃

保健医療学部

学長賞

この度は総代という貴重な経験をさせていただき深く感謝しております。大学生活は日々の講義や実習に加え、卒業研究や国家試験対策など充実していました。臨地実習では、患者さんと接するなかで、「見る」ということが生活においていかに重要であるかを再認識しました。難しさや自分自身の未熟さを何度も痛感しましたが、そうした経験を含めて有意義な時間を過ごすことができたと思っています。

多くの人に出会い、支えられた四年間でした。切磋琢磨し合える友人たち、温かく熱心にご指導くださった先生方、こうしたすべての方との出会いは、私にとって大切な財産となりました。

これから視能訓練士として新たなスタートを切るようになりますが、急ぎすぎず一歩ずつ前に進んでいきたいと思っています。



卒業生総代
大田原キャンパス
保健医療学部 視機能療法学科
赤羽根好乃

卒業生総代



理学療法学科 大松峻也

卒業生総代
看護学科 加瀬千恵
卒業生総代（六ページに掲載）



薬学科 古賀香央里



医療福祉学部
医療福祉・マネジメント学科 岩佐優香



放射線・情報科学科 丸山知郁

私が看護師をめざしたきっかけは、自分が入院した際、親身に接してくれた看護師の方がおり、心に寄り添うことのできる看護に感銘を受けたからです。

看護について学ぶ時間はあっという間に過ぎ、とても濃い四年間であったと思います。特に印象に残っているのは実習です。学んできた知識や練習した技術を実際に患者さんに行うことに強く緊張し、患者さんに必要なことは何かを考え続けた日々は辛いこともありましたが、しかし自分の考えた看護が患者さんに届いたとき、喜びと看護の面白さ、大きなやり甲斐を実感し、改めて強く看護師になりたいと思いました。

四年間の日々は、友人たちと切磋琢磨し先生方のご指導に支えられたものです。新天地においても学びを深め、心に寄り添う看護師になれるよう努力していきたいと思っています。



小田原キャンパス
小田原保健医療学部 看護学科
加瀬千恵



言語聴覚学科 古川美穂子



作業療法学科 小柳ちひろ

卒業生総代
理学療法学科 速水慶太
卒業生総代（六ページに掲載）



福岡看護学部
看護学科 宗ちとせ

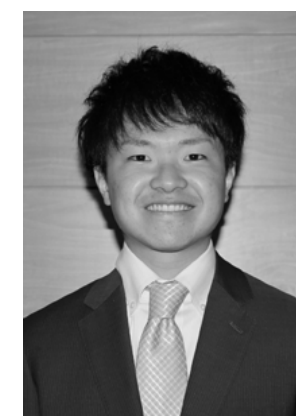


作業療法学科 長嶋早紀

入学当初、まだ明確な目標を見つけていけなかったまま大学生活を送っていた私が、日々の授業のほか、海外研修、青年海外協力隊への参加、ボランティア活動など、さまざまな学外活動を経験して、将来における自分の目標が具体化してきたときに、人間としてひと回り大きく成長できたと感じました。

本学は先生方と学生たちの距離が近いことが大きな魅力で、こうした人間関係に支えられて、安心して大学生活を送ることができました。また、多くの友人と過ごした日々や今後の宝物になると感じています。

今後は、この四年間で学んだことを広く社会に還元し、日本、さらには世界のために貢献できるセラピストとなることを目標にして、日々努力していくつもりです。



福岡キャンパス・大川キャンパス
福岡保健医療学部 理学療法学科
速水慶太



福岡・大川キャンパス

●街のシンボル・福岡タワーをバックに



●卒業式の会場の晴れやかな表情



●絆の強さを確かめた謝恩会



●4年間でともに過ごした仲間たち



●あいにくの雨でも表情はこんなに晴れやか



●普段とは違った表情を見せる学生たち



●看護学科は後輩が学科伝統の「よさこいソーラン」で送り出す

大学院長賞

博士課程・先進的ケア・ネットワーク
開発研究分野
川村 真由美 修了生総代



感謝の気持ちを持って研究を続けたい

博士課程を修了した今の気持ちを一言で表すと、「感謝」ではないかと思えます。思えば、研究を志したきっかけは、看護師として病院や在宅で出会った高齢者のあまりに寂しい姿でした。私たちが今あるのは、その方々がこれまで家族のため、国のために身を粉にして働いてくれたお陰です。だからもっと幸せに生きてほしい、そのために自分にできることは何だろうと考えるようになりました。

さらに、研究を始めてから実に多くの方々と知り合い、ご協力をいただきました。自らががんを患いながら高齢の母を介護している方、働きながら一人で九〇歳を過ぎた寝たきりの母と認知症の父を介護してきた方、こうした先の見えない大変な毎日を通していろいろの方々の切実な思いが私を導いてくれました。本当にありがたく、心から感謝しております。研究というのは単にデータをまとめる作業ではなく、思いを人に伝わる形にする

作業でもあると感じました。研究をまとめ上げる過程は、気力・知力・体力の限界に挑むものではありましたが、対象の切実な思いを形にでき、研究疑問に手応えを感じた瞬間は、何物にも代えがたい喜びでした。自分が探求したいことは何なのか、伝えたいことは何なのかをじっくり考え、明確にしておくことが大切ではないかと思えます。

今後は感謝の心を基本に、今回の研究で明確になった課題を一つずつ解いてゆきたい、そして少しでも介護される人、する人、および医療者、支援者に貢献できるよう、実践的な役に立つ研究を続けていきたいと思っています。

修士課程・作業療法学分野
ヤミン エイ(ミヤンマー出身)



ミヤンマーに作業療法を導入するために

修士論文を書き上げることができ、皆さまでに深くお礼申し上げます。研究にあたって、先生方から絶えず指導や励ましをいただいた結果だと思っています。

私は理学療法士ですが、母国のミヤンマーにはまだ作業療法士がいないので、国からの要請により作業療法を勉強することになりました。本学で学ぶチャンスを得たことは、私にとっても、ミヤンマーのリハビリテ

ーションにとっても、よい機会であると感じました。私の研究の目的は、修士の取得だけではなく、ミヤンマーに作業療法を導入することでもあったのです。

研究を始める前に、作業療法とは何かについて理解しなければならず、テーマを決めるまでに時間を費やしました。作業療法をより深く理解するために、作業療法の基礎科学をテーマに研究しました。それは私にとって困難なものでしたが、この研究によつて、作業療法の最も重要なことを学ぶことができました。先生方の貴重な提案やアドバイスを、とても役立ちました。特に、指導教員の谷口敬道先生と副指導教員の小賀野操先生に深く感謝しています。私の弱点を理解して親切に辛抱強くサポートしてくださりました。

「事をなす」ということは「達成しよう」という意思決定から始まりますので、「できる」という気持ちを持つことが大事です。これから、日本で学んだ経験と知識をミヤンマーのリハビリの発展に生かしていけるよう全力を尽くします。

修士課程・生殖補助医療胚培養分野
坂本 淳平



不妊治療を学ぶ最高の環境でした

以前から不妊治療について興味があり、転職を考えていました。国際医療福祉大学には全国にも数少ない、胚培養士育成を目的とした不妊治療専門の分野があると知り入学を決めました。特に不妊治療専門施設での実習が可能であり、より実践的な専門技術を学ぶことができました。

修士課程の二年間を終えて振り返ると、不妊治療の最先端で患者さんと向き合う先生方から経験に基づいた貴重な講義を受けたこと、すでに臨床の現場で胚培養士として活躍する受講生の現場での生の声を聞いたことなどが最大の利点でした。また、大学院から学会参加発表の機会を与えていただき、気兼ねなく学業に専念することができました。そして、その交流の輪を広げることができました。

こうした学びやすい環境から、学業と並行して就職活動にも力を入れることができ、修士一年次に不妊治療専門施設へ胚培養士として無事に就職することができました。これも、より実践的かつ専門的なカリキュラムであったこと、また、すでに臨床で活躍されている先輩方と直接お会いする機会に恵まれたことが大きな要因でした。

在学中に出会った先生方や受講生、新たに胚培養士となった同期生との出会いは、新しい業種に挑戦する私にとって何よりの財産となりました。今後は修了生として、先輩方にいただいたことを思い出し、新たに入学される方々と交流し、互いに刺激し合える機会を作っていければと思っています。

第38回
小田原
キャンパスレポート

平成二七年度学位記授与式

三月一日、小田原キャンパスで小田原保健医療学部と大学院の学位記授与式を挙行了。小田原市副市長・加部裕彦様、国立病院機構箱根病院長・小森哲夫様をはじめ、数多くのご来賓、保護者、教職員に見守られ、学部生一五五名(看護学科六〇名、理学療法学科四八名、作業療法学科四七名)と、小田原・熱海キャンパスに所属する大学院生二七名(博士課程四名、修士課程二三名)に学位記が授与された。

北島政樹学長、天野隆弘大学院長より学位記を受け取った総代は加瀬千恵さん(看護学科)、岩清水伴美さん(博士課程)、鈴木美咲さん(修士課程)。続いて、学長賞が加瀬千恵さん、大松峻也さん(理学療法学科)、長嶋早紀さん(作業療法学科)に授与された。北島学長より「卒業生の皆様は、本学で学んだ専門的な知識と技術を活用し、医療福祉の先導者となるべく自ら考え、自ら行動し、幅広い教



●晴れの日を迎えた学生たち

謝恩会

学位記授与式・学位記伝達式の終了後、市内のヒルトン小田原リゾート&スパに会場を移し、小田原保健医療学部謝恩会を開催した。卒業生が招待した先生方をエスコートして入場し、謝恩会の幕が上がった。冒頭、北島政樹学長、各学科長へ花束

養と広い視野を備えた豊かな人間性を養っていただきたい。さらに本学がめざす『チーム医療・チームケア』の一員として、多様性を備えたコミュニケーション能力の向上に努めていただきたい」と式辞が述べられた。そして、学部生を代表して大松峻也さん、大学院生を代表して和田隼さん(修士課程)より謝辞、長嶋早紀さんより卒業記念品の贈呈が行われた。午後は、学科長(大学院は大学院長)より卒業生・修了生一人ひとりに学位記が手渡される学位記伝達式が行なわれた。これから、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士としてのスタートラインに立つ学部卒業生たち。教職員一同、卒業生の今後の活躍を祈念している。

(総務課 高久晃)



●晴れの日を迎えた学生たち



●北島学長を実行委員長がエスコート

贈呈し、お祝いの言葉をいただいた。黒澤和生副学部長と理学療法学科有志の乾杯を合図にプログラムがスタートし、「Thanks you from bottom on my heart」心から感謝します」と題した、四年間の思い出と先生方への感謝のメッセージが込められた動画が会場スクリーンに映された。国家試験・就職活動・実習がある中、ごく限られた時間で作成した卒業生の力作だ。多くの卒業生がスクリーンの前に駆け寄り、正座をして、思い出の詰まった動画に見入る姿は、これまでになく光景だった。



●思い出の動画を遠くから懐かしむ卒業生



●お世話になった先生方と乾杯!

全学科の動画が終了し、会場が再び明るくなると、卒業生のみならず先生方の中にも目に涙を浮かべている姿が見られた。テーブルを囲んで先生方と思い出話に花を咲かせる姿が多く見られ、例年以上に会場はアットホームな雰囲気にも包まれていた。最後に、実行委員長の宮原舞さん(看護学科)から、先生方と、四年間苦楽を共にした学友への感謝の言葉が述べられ閉会した。閉会後もサポート役の三年生に、来年度へのアドバイスや今後の指示をする実行委員の顔に、四年間の成長の姿を見た。小田原キャンパスで深まった絆は、これからそれぞれが選んだ道へと歩みを進める卒業生たちの大きな力となることだろう。



●これからも繋がって行こう!



●大好きな先生、ありがとうございました!

(学務課 佐藤浩子)

大川キャンパス・福岡キャンパス 平成二七年度

合同学位記授与式

三月七日、福岡市百道浜にある福岡国際医療福祉学院体育館で、福岡保健医療学部・福岡看護学部・大学院の合同学位記授与式を行った。記念すべき日にふさわしい、麗らかな陽気に包まれたこの日、会場に到着した卒業生・修了生は晴れやかな笑顔をみせた。

式では、まず、在校生とともに校歌「未来(あす)への扉」

を斉唱。学部生二七九名、看護学科九名、理学療法学科九名、作業療法学科四七名、言語聴覚学科三八名、大学院修了生(博士課程五名、修士課程二二名)を代表して、北島政樹学長から学部卒業生総代の速水慶太さん(理学療法学科)に、天野隆弘大学院長から博士課程総代の藤原和彦さん、修士課程総代の佐々野時美さんに、それぞれ学位記が手渡された。

さらに、各学科の学業最優秀者である速水さん(理学療法学科)、小柳ひろさん(作業療法学科)、古川美穂子さん(言語聴覚学科)、宗とせさん(看護学科)



に学長賞が授与されたほか、高木邦格理事長から中尾仁美さん(理学療法学科)、久永知佳さん(作業療法学科)、井上美里さん(言語聴覚学科)に全国リハビリテーション学校協会「優秀賞」が、北島学長から平野真結さん(看護学科)に日本私立看護系大学協会「会長賞」が授与された。

続いて、北島学長からの式辞。「本学で学んだ専門的な知識と技術を活用され、医療福祉の先導者となるべく自ら考え、行動し、幅広い教養と広い視野を備えた豊かな人間性を養っていただきたい」との激励の言葉に、みな決意を新たにしようとした。

天野大学院院長、高木理事長の式辞に続き、多数のご来賓を代表して、福岡県議会議員・藏内勇夫様、衆議院議員・古賀篤様、大川商工会議所会頭・津村洋一郎様より祝辞をいただき、小柳さんの「卒業生謝辞」、潮平健太さんの「修了生謝辞」、古川さんによる「卒業記念品贈呈」をもって閉式となった。



●在校生とともに校歌斉唱



●学部卒業生代表の速水慶太さん

福岡看護学部 学位記伝達式

合同学位記授与式に続き、福岡国際医療福祉学院体育館で福岡看護学部学位記伝達式を行った。卒業生は、保護者の皆様に見守られながら、名前を呼ばれると緊張した面持ちでステージの上へ。「よく頑張りましたね」というねぎらいの言葉とともに、斉藤ひさ子学部長から一人ひとりに学位記が授与されると、ほっとした表情で卒業の喜びをかみしめていた。



●卒業生をねぎらう斉藤学部長

福岡保健医療学部 学位記伝達式

福岡保健医療学部の学位記伝達式は、授与式と同じ福岡国際医療福祉学院の教室で学科別に執り行われた。学科長・お世話になった教員から一人ひとりに学位記が手渡されると、卒業生だけでなく、その姿を見守るご家族・教員も感慨ひとしおの様子であった。



●理学療法学科



●作業療法学科



●言語聴覚学科

続いて、斉藤学部長からはなむけの言葉が贈られたあとは、記念撮影。晴れやかな笑顔で互いの門出を共に祝いつつ、将来への希望に胸を膨らませながら巣立っていった。



●全員で記念撮影

(九州地区広報室 木谷朋子)

第28回 福岡 キャンパスレポート

建陽大学看護学科の研修 受け入れ

一月二六日から二月五日にかけて、韓国建陽大学看護学科の学生二六名と教員一名が来日し、福岡看護学部で研修を行った。「日本の高齢者ケア、地域・在宅と病院・施設との効果的な連結」をテーマとして講義・演習・施設見学を実施した。日本語文化課程では、茶道・着物を体験し、学生交流では、日韓比較文化発表・サークル交流などを行った。

高齢者ケアというテーマは、韓国も高齢化が進んでおり、参加学生からは「テーマにあった施設と講義が一緒に構成されていて関心をもちながら研修に参加することができた。やがて韓国社会が目の当たりにする高齢者問題にびびりだした」という感想もあり満足度が高かった。

一・二年次の学生国際交流委員と韓国の学生との交流は、グループパートナーを中心にいった。最初の自己紹介では、全員が相



●着物体験をする韓国の学生たち

手国の言語で行い、一気に親近感がアップした。「一年次で韓国語を学んだことが生かされた」、もともと韓国語を勉強していたらスムーズにコミュニケーションがとれたと思った。「交流はいいけど、通じないことが多く、もつと英語を勉強したいと思った」など、言語に苦戦しながらも積極的にコミュニケーションをとる、お互いの文化を学び合い交流が深まっていた。

また、大学間連携共同教育推進事業



●研修のまとめを発表する学生たち

で開催しているナッシングキャリアカフェでは、韓国教員と学生が韓国の看護教育と学生生活について発表した。本学の学生は、勉強が厳しい韓国の大学生活に驚き、自らの学生生活を振り返る機会にもなった。日韓混合でのグループワークや研修のまとめを通じて、韓国学生のプレゼンテーション能力や学修態度が刺激となっていた。本学学生からは「国際交流の大切さがわかった。言葉の壁があってもわかり合えると感じた」、「パートナーとして仲良くなった韓国の学生に会いに韓国に行ったりして交流を深めたい。看護にも生かしていきたい」などの声があり、双方にとつて有意義な研修であった。

(准教授 山口みどり)

第42回 大川 キャンパスレポート

医学検査学科 キャリア支援講演会を開催

機器メーカー、病院それぞれで勤務する現役の臨床検査技師を招いて医学検査学科二・三年次対象の就職支援イベント「キャリア支援講演会」を開催した。

目的は、「医学検査学科の学生が将来に対して主体的に向き合う機会を得る」というもの。外部から講師を招き、それぞれの職域に関わる講演を聴くことにより、臨床検査技師が関わる現実を理解するとともに、進路選択や進路に対する意識の向上につながる。ことが狙いである。



●外部講師による講演

当日は、二・三年次の約二〇〇名全員が参加。着慣れないスーツを着用し、緊張した面持ちでそれぞれの講師の話に耳を傾けていた。各講師の講演のあ

とには、活発な質疑応答が行われた。これまでは、「就職活動はまだまだ先のこと」と思っている学生も多かったようであるが、今回の講演会が、「病院以外で働く臨床検査技師のことも詳しく知ることができ、視野が広がった」、「自分自身の仕事に対する意識の低さ、認識の甘さを痛感した」など、臨床検査技師として働くことを真剣に考えるよいきっかけとなったようだ。



●進路への意識を高めた学生たち

今回のキャリア支援講演会のテーマ

- 「検査センターで活躍する臨床検査技師」
 - 「企業で活躍する臨床検査技師」
 - 「病院で活躍する臨床検査技師」
- 「これからの臨床検査技師に期待すること」

(入試学生募集課 井上雅博)

第12回 大学院

キャンパスレポート

平成二七年度学位記授与式

三月九日、大田原キャンパスで大学院の学位記授与式を挙行し、修士博士あわせて二四三名が修了した。

さらに、三月二日、東京青山キャンパスでの学位記伝達式には一〇〇名を超える修了生が参加し、天野大学院長より一人ひとりに学位記が手渡された。また、当日は特定行為看護師養成分野（旧ナースプラクティショナー養成分野）の修了生に対し、特定行為研修の修了証も授与され、昨年度までの修了生も駆けつけ、大学院長より修了証が手渡された。

引き続き行われた
 歓送会では、修了生を代表して特定行為看護師養成分野修了の田平絵里さんがあいさつの言葉を述べた。田平さんは今年一月に戸塚駅で倒れている男性に心肺蘇生法を実施し、その人命救助に対して戸塚消防署より感謝状が授与されている。田平さんは大きな後遺症もなく社会復帰を果たした男性と再会できてとても嬉し



●学位記伝達式の様子

かったと話し、その医療人としての模範的な行動に、修了生たちも気持ちを新たにしたい様子だった。

平成二八年度入学式

四月二日、入学式を実施し、大学院としては過去最大の入学人数となる三十三名の新生を迎えた。

四月三日、東京青山キャンパスで実施した新生オリエンテーションでは、例年使用している教室では収まりきらず、キャンパス内の三教室を同時双方向遠隔授業システムで繋いで実施するなど、とても活気が溢れるなかでの新年度のスタートとなった。



●新生オリエンテーションの様子

別れと出会う季節が過ぎ、大学院では本格的に授業が始まっている。学生たちの溢れる熱意をしっかりと支えるべく、大学院事務局は丸となって業務にあたり、

（大学院運営室 近納一重）

第20回 塩谷看護専門学校

キャンパスレポート

第八回卒業式

三月四日、第八回生三十六名の卒業式を挙行了した。

思い起こせば三年前の春、学校生活への不安と希望の入り混じった表情で本校に入学した学生たち。入学してから、講義や実習などから学びを積み重ね、八汐祭などの学校行事を通して友情を深めた思い出深いかけがえのない年月であったと思う。ともに励まし、支えあひながら壁を乗り越え迎えた卒業は、学生たちに確かな自信と大きな勇気をもたらした。



●江口光興学校長から卒業証書を受け取る卒業生

国家試験全員合格

三月二五日、第一〇五回看護師国家試験の合格発表があった。

二週間ほど前に巣立った学生たちに今年も満開の桜の便りが届いた。プレッシャーに負けることなく、クラス全員で励ましあひながら頑張った結果ではないかと思う。ほっとした表情、満面の笑みなど表情はさまざまだが、誰もが全身で喜びを表していた。

四月からは看護師としてそれぞれの道を歩き出す。常に初心を忘れることなく努力し成長してゆくことを願っている。

（専任教員 高山栄子）



訃報

生前のご厚誼に感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆ ◆ ◆
 本学の名誉大学院長で学事顧問の金澤一郎先生が一月二〇日、臍臓がんで亡くなりました。七四歳でした。金澤先生は東京大学医学部を卒業され、東京大学医学部脳神経内科教授、日本内科学会や日本神経学会の理事長を務められました。宮内庁の皇室医務主管を二〇〇二年から一〇年間務められたほか、国立精神・神経センター総長や日本学術会議会長など数々の要職を歴任なされ、二〇一三年に瑞宝重光章を受章されました。



●金澤一郎名誉大学院長

二〇〇七年に本学の大学院教授に就任された後、一年から四年間にわたって大学院長を務められ、医学部新設の準備などで多大なご指導をいただきました。

葬儀は一月二七日と二八日にご家族と本学の合同葬により青山葬儀所で行われました。生前の幅広い活躍と温かいお人柄を偲んで各界から一五〇〇人を超える人たちが参列し、両陛下や皇太子ご夫妻、全ての宮家からお花などのお供え物をいただきました。

本学の発展に力を尽くしてくださった金澤先生に感謝し、改めてご冥福をお祈り申し上げます。

（東京事務所 総務企画部）

ミャンマー保健省と医療協力に関する基本合意書を締結

本学は、二月八日―一二日の日程で、ミャンマー保健省のタン・アウン保健大臣、ミント・ハン医療サービス部門長官など五名を招聘し、ミャンマーの医療向上とリハビリテーション分野の人材育成に対する協力を目的とした基本合意書（MOU）を締結した。八日に東京事務所で行った調印式には、高木邦格理事長が出席し、ミャンマーのトゥレン・タン・ズイン駐日大使も同席された。保健大臣は、本学とのこれまでの友好関係に謝意を示すとともに、今後の関係維持強化を表明した。また、一〇日には本学大学院東京青山キャンパスにおいて、ミャンマーの保健医療事情をテーマにした特別講演会を開催。タン・アウン保健大臣のスピーチのほか、ミント・ハン長官、ネ・ウィン・ミャンマー学術医療協会会長が講演を行い、活発な質疑応答が交わされた。



●東京事務所での調印式

大田原キャンパスでは、北島政樹学長による歓迎昼食会が催され、ミャンマー出身のIUH W奨学生一名も同席。さらに、桃井眞里子病院長の案内で国際医療福祉大学病院を視察し、先進的な医療機器および教育・医療の質の高さを評価されていた。

（国際部 山岸洋子）

マレーシアのマネージメント・アンド・サイエンス大学と学術交流協定を締結

二月二六日、本学はマレーシアのマネージメント・アンド・サイエンス大学（以下、MSU）と学術交流協定を締結した。今後、「教員・学生の相互交流」、「講演・講義等の開催」、「学術・研究に関する情報交換」などで連携・協力していく。

MSUの招待を受け、高木邦格理事長、松谷有希雄副学長がクアラルンプール近郊の同大学を訪問。タン・スリ・シュクリ学長、ブアン・スリ・ジュナイナ副総長をはじめとする多くの関係者の歓待のなか、締結式が開催された。さらに、



●高木理事長とタン・スリ・シュクリ学長

本学が開学をめざす医学部の新設計画や、MSUが本年中の開設をめざしている新病院計画などの情報交換が行われた。

同大学は二〇〇一年に創設され、国内の私立大学では最大規模、国際医学部、健康科学工学部、薬学部、教育社会科学部、ホスピタリティ&創造芸術学部、ビジネス管理学部、情報科学工学部がある。インド、スリランカ、インドネシアにもキャンパスを擁し、インド・バンガロールに三つの病院を持つ。二〇一六年二月には本キャンパス隣接地に、二五〇床規模の附属病院の新設を予定している。

（国際部 雨宮秀行）

第六回高校生作文コンテスト ベトナム医療福祉体験ツアー報告

三月二七日から四月一日の日程で、昨年開催した「第六回『共に生きる社会』めざして 高校生作文コンテスト」の受賞者五名の高校生を、ベトナム・ホーチミン市の医療福祉体験ツアーに招待した。応募総数一一五〇作品より選ばれた、最優秀賞、優秀賞、佳作の作品を書いた高校生五名は、本学の提携医療機関であるチョーライ病院をはじめとする医療施設を訪問した。施設見学を通じてベトナムと日本の医療福祉の違いを体験し、国際医療協力の重要さについても考える機会にもなった。また、



●訪問先のチョーライ病院にて

在ホーチミン日本国総領事館やJICA事務所への表敬訪問、市内観光などさまざまな場面をおして、ベトナムと日本の協力関係の歴史が互いの経済・文化面の繁栄に貢献していることを学んだ。最終日にはチョーライ病院のスタッフを交え、グローバル社会の一員として「他者のためにできることは何か」について議論を交わした。

このツアーを通じた出会いがきっかけとなり、さらに国際協力の輪が広がることを期待される。

（国際部 山崎薫子）

平成二八年度
学部入学式並びに
大学院入学式

四月二日、大田原キャンパスにおいて「平成二八年度 学部入学式並びに大学院入学式」を行った。



●新入生は初めて聞く校歌「未来への扉」

アカペラサークルによる校歌「未来（あす）への扉」の斉唱に続き、大友邦学長、天野隆弘大学院長、高木邦格理事長が式辞を述べた。また、来賓を代表して、大田原市長・津久井富雄様、栃木県知事代理・保健福祉部長・近藤真寿様から祝辞をいただいた。

これを受けて、学部新入生を代表して小笠原まなみさん（言語聴覚学科）と大学院新入生を代表して宮木絵里香さん（医療福祉学研究所 博士課程）が「新入生誓いのことば」を述べた。

最後に、高木理事長から壇上の教

員が一人ひとり紹介され、式は滞りなく終了し、その後、それぞれ、親会並びに大学院祝賀会、「学科別懇談会」、「大学院オリエンテーション」に臨んだ。



●学科別懇談会を終え桜のもとで記念撮影



●誓いの言葉を述べる宮木絵里香さん（左）と小笠原まなみさん（右）



●会場前では新しい仲間を求めて、部・サークルの勧誘も

平成二八年度
学部新入生・大学院新入生概要

学部合計		1726名
保健医療学部	合計	474名
看護学科		98名
理学療法学科		79名
作業療法学科		78名
言語聴覚学科		79名
視機能療学科		40名
放射線・情報科学科		100名
医療福祉学部	合計	161名
医療福祉・マネジメント学科		161名
薬学部	合計	194名
薬学科		194名
成田看護学部	合計	108名
看護学科		108名
成田保健医療学部	合計	261名
理学療法学科		92名
作業療法学科		43名
言語聴覚学科		40名
医学検査学科		86名
小田原保健医療学部	合計	173名
看護学科		87名
理学療法学科		43名
作業療法学科		43名

大学院合計		333名
修士課程	合計	264名
医療福祉学研究科		263名
保健医療専攻		192名
医療福祉経営専攻		46名
臨床心理学専攻		25名
薬科学専攻		1名
生命科学専攻		1名
博士課程	合計	69名
医療福祉学研究科		68名
保健医療専攻		68名
薬学研究科		1名
医療・生命薬学専攻		1名

その他のキャンパス・グループ施設		
入学式		
四月四日	成田キャンパス	
四月五日	小田原キャンパス	
四月六日	福岡キャンパス・大川キャンパス	
四月七日	塩谷看護専門学校	
入社式・辞令交付式		
四月一日	栃木地区	
四月二日	東京・千葉・小田原・熱海地区	
四月六日	九州地区	

第3回
成田
キャンパスレポート成田キャンパス開学式・
第二回入学式

四月四日、成田キャンパスにおいて「平成二八年度 成田看護学部・成田保健医療学部開学式および入学式」を行った。校歌「未来（あす）への扉」の斉唱に続き、高木邦格理事長、大友邦学長が式辞を述べた。続いて、来賓を代表して、成田市長・小泉一成様、印旛市郡医師会会長・遠山正博様、千葉県健康福祉部保健医療担当部長・古元重和様、日本理学療法士協会会長・半田一登様から祝辞をいただいた。その後、ご臨席いただいた来賓の方々を紹介した。

これを受けて、学部新入生を代表して前野裕香さん（看護学科）が「新入生誓いのことば」を述べた。



●「新入生誓いのことば」を述べる前野裕香さん

最後に、高木理事長が壇上の教育研究活動の中心となる教員をはじめ、役職者も紹介して式典は滞りなく終了した。当日は、朝からあいにくの雨模様だったが、式典終了後は太陽が顔をのぞかせ、新入生の門出を祝っているようだった。

式辞（抜粋）

高木邦格理事長



新入生と保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。新年度のご多忙の中お越しいただいた多くのご来賓の皆様、ありがとうございます。本日入学された成田キャンパス第一期生は三六九名で、既存キャンパスと大学院を合わせますと今年度は本学全体で二〇五九名の新入生を迎えることができました。

昨年開学二〇周年を迎えた本学は、日本初の医療福祉の総合大学として戦後の新設大学の中で屈指の大学という評価をいただいています。一九〇〇人を超える卒業生たちのように、今後は皆様が日本の医療福祉を支える存在として期待されています。成田ならではの国際性を重視した新しいキャンパスで、第一期生の皆様が医療福祉のスペシャリストをめざして勉学に励まれることを期待しています。

大友邦学長



みなさんは青春真っ只中だと思います。これからの大学生活に夢をふくらませていくことと思います。是非、密度の濃い時間を過ごしていただけて長く続けていく職業の基礎をしっかりと身につけるとともに、まさに、生涯にわたる財産となる人的なネットワーク、友達の輪を構築していただくことを期待しています。そして、そのために我々スタッフ一同は最大限努力してご支援申し上げます。本日夢と希望と勇気を持って、人生の新しい一歩を踏み出されたみなさんの今後の活躍とご健闘を祈念して、式辞とさせていただきます。

祝辞（抜粋）

成田市長 小泉一成様



成田市初となる大学の開学は、成田市民が心から待ち望んでいたことだと思います。

晴れて第一期生となられたみなさん、誠におめでとうございます。この真新しいキャンパスで過ごす四年間は、みなさんの人生にとって、かけがえのない時間となることは間違いありません。みなさんが心に描く夢の実現に向け、ここ成田市で充実した学生生活を送っていただくことを、心からお祈り申し上げます。

印旛市郡医師会 遠山正博様
会長

成田市のみなさん、印旛地域の高齢化のスピードは非常に早い一方、医療スタッフや施設の数是全国でも下位にある状況です。これから若いみなさんががんばって、これらの問題を解決していただきたいてい期待しております。

千葉県健康福祉部 保健医療担当部長 古元重和様
(千葉県知事・森田健作様の祝辞を代読)

千葉県の医療サービスを支える優秀な人材が集うことで、地域医療の充実はもとより、地域の活性化にも資するものと期待を寄せております。入学されたみなさんには、勉学に励まれ、将来、本県の保健医療を支える一員として活躍されますことを期待いたします。

日本理学療法士協会 会長 半田一登様



心豊かで、知識・技術に優れて、国際的な心と視野を持つて、そして自分たちの「未来（あす）への扉」を開いていただくことを期待しております。

四か国、七グループで実施した。参加者は、学生一一人、教職員一一人。そのうち、オーストラリア、シンガポール、タイの様子をレポートする。

オーストラリア

貴重な体験を今後の糧に

薬学科 准教授 清水 貴壽

一月二九日から二週間、大田原キャンパス二十五人、小田原キャンパス四人の学生が、TAFE (語学学校) とグリフィス大学に分かれて研修を実施した。

グリフィス大学では、午前は主に Griffith English Language Institute の英語講義により、オーストラリアの文化、環境、医療関連表現などを学び、午後はゴールドコースト大学病院、高齢者ケア施設、グリフィス大学の看護学科、薬学科などを見学した。本研修は英語の研修が主であるが、こうした施設の見学、学科体験により医療福祉現場を目の当たりにして、座学では実感できない貴重な体験ができた。また、グリフィス大生とのスポーツ大会やホームステイ先の家族など、さまざまな人々と交流を図った。



● Vincent 先生による英語講義

今後は各分野の学習はもちろん、英語学習を継続して、国際貢献のできる医療人をめざしてほしい。

シンガポール

多くの発見と出会いに感謝

保健医療学部 放射線・情報科学科 二年 西野 真理子

一〇日間の研修は、シンガポールの医療、福祉の現状はもちろん、街並みやそこに住む人々、気候や生活の違いを感じることで、充実した内容だった。

ナンヤンポリテクニクの先生方の指導のもと、シンガポールの医療、福祉システムについての講義を受け、病院や福祉施設を見学した。Enabled Village で見学した装置には、障害を持つ人がテクノロジーを使い、最終的には職に就くことを目標とした画期的なものがたくさんあった。日本は医療水準が高く、リハビリテーション分野でもさまざまな開発がされていると思うのだが、シンガポールで見た技術は私の知らない発見がたくさんあった。



●ナンヤンポリテクニクの方々と

今回の研修では、異なる国の文化や医療制度を知ること、自分の視野を広げることができたと思う。また、同じ医療職をめざす学生との国境を超えた繋がりは、一生の宝物となるだろう。今回の経験を今後の学習に役立てていきたい。

タイ

タイの最先端医療と患者への配慮

総合教育センター語学教育部 講師 佐藤 寛子

一月二九日から二週間、大田原キャンパス言語聴覚学科二名、小田原キャンパス看護学科五名の学生が、タイで研修を行った。医療施設見学と医療事情講義などのほか、市内視察を含めクリスチャン大学の教職員の皆様に全面的協力と親切丁寧な対応をいただいた。

バンコク国際病院は、タイ医療ツーリズムの先駆的な役割を担い、最高水準の医療とサービスを提供しているが、外国人を含む患者さん受け入れに必要な設備、制度、サービスの基盤はきめ細かい接遇研修にあるという。例えば、患者さんに話しかけるときにはひざを折り上から見下ろすことがないようにする、方向を示すときには人差し指を使わずに全指をまっすぐ揃え手のひらを見せて指示するなどは、医療従事者にとって必須の訓練とのことである。礼節を重んじるタイにおいて、医療の根底にある他者への配慮とは何かを改めて学んだ研修であった。

Phrabat Naphu HIV/AIDS 寺院を見学して学んだこと

小田原保健医療学部 看護学科 二年 鈴木 風香

私たちが訪れた通称「AIDS 村」と呼ばれている施設には、約一四〇人の患者さんが生活していた。衛生状態が良いとは言えない環境で生活していた。ここにいたら、

多くの場合家族は会いに来ない。来たとしても、患者の子がどんなに幼くても家族が泊まることは許されない。火葬場があり、骨で作ったアート作品が置かれていた。展示用に男性、女性、レディーボーイ、幼い少年のミイラが置かれており、そこには家族に送ったが返されてしまったという骨が数多く積まれていた。

AIDS に対する偏見は確実に存在する。面会にほとんど来ない、骨を送り返すということを聞いて世間だけでなく患者さんの家族にさえ正しく理解されていないことを実感した。しかし、この施設に一般の人が訪れ、患者さんと触れ合う機会を通して、AIDS に関する理解が少しでも広まり、それを誰かに伝えることで偏見は少しずつ軽減していくと感じた。また、何より医療従事者が知識をさらに習得し正しい知識を広めていくことも重要であると感じた。



●昼食の配膳を行う患者さん



●患者さんが療養している部屋



●骨で作った作品

生涯学習のご案内

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみならず、大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」
社会人が学びやすい3つの特長

- ①キャンパス 大田原、成田、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に7つのキャンパスを開設しています。
- ②カリキュラム 多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間にしています。
- ③同時双方向遠隔授業 複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS 臨床検査学分野を新設

大学院保健医療学専攻では、本年度より臨床検査学分野を新たに開設しました。臨床検査技術の高度化に伴い、より安全で質の高い医療を提供する研究者の育成をめざします。

詳細は大学院ホームページに掲載予定です。

<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/index.html>

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで (TEL : 0287 - 24 - 3200)

学べる! 役立つ! 究める! 動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ
医療福祉 e チャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

主な配信番組

●理学療法分野
リハ評価指標 温故知新—臨床力レベルアップ—

●介護・福祉分野
自立支援型ケアマネジメント・
自立支援介護

●医療・福祉・経営実務
社会保障の政策形成の最前線2
保健医療福祉政策論2

●リハビリテーション
共通分野
立位・歩行を考える: 移動障害
への対応を
目指して

●厚生労働省情報
障害保健福祉関係主管課長会議(3月8日開催) ※無料配信
全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議(3月7日開催) ※無料配信

●乃木坂スクール
保険者マネジメントセミナー

●情報BOX
納得! カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医が
わかりやすくお教えします)

お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係 (月曜～金曜 9:00～17:00)
Eメール info@iryoufukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

IUHWグループ職員・学生向け動画配信サイト 「国際医療福祉大学VODライブラリー」 <http://www.ch774.com/student.php>

●大学授業・副教材
死生学～死を通して考える、雑談と傾聴～話す力と訊く力、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、医学／医療史、メディカルマナー入門、健康科学理論、リスクマネジメント論、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、他

広報誌 IUHW 105 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕 広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔成田キャンパス〕
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701

〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4 ☎092-407-0805

〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000

編集：大田原キャンパス広報室 ☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン
写真：米山真人



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

<http://www.iuhw.ac.jp/>

Narita Campus

看護学科

理学療法学科

作業療法学科

言語聴覚学科

医学検査学科

**成田キャンパスが開学！
第1期生369名が入学しました。**



国際都市
「成田」に
未来型キャンパス
誕生！



国際医療福祉大学
成田看護学部・成田保健医療学部 開学祝賀会

